

ダリアの根腐病（新称・国内新発生）

令和2年8月に空知地方のダリアで葉枯れ症状や地際部と根の腐敗症状が確認され、生育不良株および枯死株が発生した。被害株からは隔壁が無く卵胞子を形成する菌が分離された。分離菌を接種したダリアに生育不良および腐敗症状が確認され、接種菌が再分離された。分離菌の胞子のうは乳頭状突起がある球形・亜球形で内部増殖性、大きさは29-45x33-57 μm だった。造卵器は卵形・亜球形で頂生、ときどき間生、表面平滑で大きさは21-36x24-38 μm であった。造精器は長く膨潤し表面にしわがあり異菌糸性まれに同菌糸性で、ときどき造精器柄が波を打った。卵胞子は非充満で大きさは19-30 μm であった。CMA培地上の菌糸伸張は5~35 $^{\circ}\text{C}$ で認められ、最適温度は30 $^{\circ}\text{C}$ であった。これら特徴は *Phytophthium oedoehilum* (Drechsler) Abad, de Cock, Bala, Robideau, Lodhi et Levesque とほぼ一致した。また、rDNA-ITS領域および *cox1* 遺伝子の塩基配列に基づく分子系統解析において、分離菌は *P. oedoehilum* と同一のクレードを形成した。*P. oedoehilum* によるダリアの病害は国内未報告であり、ダリア根腐病として提案した。本菌による病害として、道内ではヤーコン根腐病が報告されている。

（花野セ・空知農業改良普及センター北空知支所・ホクレン）



ダリアの根腐病（左：技術普及室 大平 原図、右：花野セ 藤根 原図）